

知財コンサルティングセンター（PCIP）セミナー報告

- (1) 日 時： 2025 年 10 月 04 日（土） 10:00 ~ 12:00
(2) タイトル： 「AI を活用したスマートシステムにおける特許出願の勘所」
(3) 講 師： 小林 透 氏
(駒澤大学 グローバルメディアスタディーズ学部 教授)
(4) 場 所： オンラインセミナー（Zoom）
(5) 聴講者： 25 名

概 要：

AI を活用したスマートシステムの実用性を高めるためには、ブラックボックスとなりがちな判定ロジックの説明性向上と品質の高い学習データの取得が鍵となる。したがって、これらのポイントの特許化できれば、競争力向上につながる。本講演では、講演者のこれまでの開発事例を元に、これらのポイントの特許化する上での勘所を具体的に説明する。

内 容：

AI を活用したスマートシステムの実用性を高めるためのポイントとして、(1) ブラックボックスとなりがちな判定ロジックの説明性向上、(2) 品質の高い学習データの取得がある。これらポイントは、以下事例に示されるように、特許化する上での勘所にもなることがわかる。

(1) 判定ロジックの説明性向上

亀甲網製網システムでは、現場熟練者の意見を聴取し、網の寄り部にフォーカスした画像処理方法を案出した。これにより、編目部分の不適合を事前に AI にて判定することが可能となり、張力制御による製網自動化システムを構築している。**スマート生簀システム**では、水中カメラの映像データに Optical Flow 技術を適用し、生簀内魚群の運動量をローズダイヤグラムにより可視化する手法を着想し、魚の空腹度を AI にて判定できるシステムを開発している。

(2) 学習データの取得

品質の高い学習データを低コストで獲得する方針をベースとしている。既存システムを活用し、独自の着想を加えた AI システムを創出することで、汎用性が高く、さらに特許化もされ得る独自技術が確立されていく。**模擬患者アバターシステム**では、「医療面接会話データセット」を独自に適正化することで AI が学習データを生成し、疾患シナリオに沿った会話を模擬患者 AI にて行うシステムとなっている。この着想は、**SNS 仲介ロボットシステム**および**小学生英会話アバターシステム**の構築にも適用されている。

所 感：

AI システムにおける独自部分をどのように特許化に結び付けるかという勘所について、豊富な事例を紹介いただきながら、わかりやすくご教授頂いた。この知見をもとに、AI 関連の特許化の動向についても注視していきたい。

以上